

2

田原市防災カレッジ
講演の要旨をご紹介します

Protection Against Disasters

防災に関するご意見・ご質問

▼防災対策課 ☎23局35948 ☒saigai@city.tahara.aichi.jp

7月2日(土)、田原文化会館で「田原市防災カレッジ」を開催

しました。このカレッジは、地域における防災意識を高めてもらおうと毎年開催しているもので、自主防災会役員などを中心に約230名の方が参加されました。

講師には、福和伸夫氏(名古屋大学大学院教授)と片田敏孝氏(群馬大学大学院教授)をお招きし、ご講演いただきました。皆さんにとって、非常に参考になる内容でしたので、講演の要旨を紙面でご紹介します。



▲防災カレッジの様子

歴史・社会に学び
次世代のために耐震化を

1 福和伸夫氏の講演要旨

東日本大震災で建物の倒壊が少なかったのは、震源が陸地から遠い太平洋沖だったことが挙げられます。また、過去の大地震の教訓から耐震化が進んでいたこと、大規模な市街地や住宅地がなかったことも理由といえます。

しかし、東海地方で大地震が起きた場合は、次の要因により大きな被害が予想されます。

- 1 東海・東南海地震の想定震源は比較的陸地に近い
- 2 地盤の軟弱な沿岸付近の平野に住家が多い
- 3 近年大地震が発生していないため建て替えや耐震化が遅れている

対策としては、家の耐震工事や家具の固定を行うこと、また、地震時に机の下にもぐる場合は、机の脚を持

って固定することが大切であり、学校や職場、地域で取り組みを普及していく必要があります。

東日本大震災にみる
命の分岐点

2 片田敏孝氏の講演要旨

東日本大震災による津波被害は、防災行政上の想定を上回っていました。想定を無尽蔵に高くすることは防災の本質ではありません。

今回の震災では、「想定にとらわれすぎた防災」に問題がありました。

- 1 行政は、想定する災害を防ぐ施設整備は行っていたが、それ以上の災害に思いが及ばなかった
- 2 住民は、情報や防災施設を過信する行政への過度の依存があった

岩手県釜石市の学校では、取り組んできた津波防災教育の「避難3原則」を実践して被害を逃れました。

1「想定にとらわれるな」
浸水想定区域は防災施設を整備す

るための想定であって、それ以上の被害が発生する場合があります。

2「最善を尽くせ」

妥協せずに、そのときできるだけ最善の避難行動をとりましょう。

3「率先避難者たれ」

自分が率先して避難すれば、他の人も続くので結果として多くの人命が助かります。



財源確保のため
広告事業がスタート

市では新たな財源を確保するため、広告事業を始めます。今後、ホームページや広報紙、庁舎内壁面、窓口封筒、健康カレンダーなどへ広告を順次掲載する予定です。

▶財政課 ☎23局3591